

# 老年看護学実習

## I. 目的

老年期にある対象の特徴をふまえ、健康障害がもたらす影響を理解し、対象に必要な看護を  
実践する基礎的能力を養う。

## II. 目標

1. 健康障害を呈した対象の健康障害がもたらす影響が理解できる。
2. 健康障害を呈した対象の治療上の管理をふまえた日常生活援助が実践できる。
3. 健康障害を呈した対象の回復に向けた残存機能を活かした援助や機能低下防止に向けた  
自己管理への援助ができる。
4. 対象および家族を取り巻く地域、社会の状況をふまえた退院後の生活に向けた援助が理解  
できる。

## III. 実習時期

2年次後期～3年次後期

## IV. 実習場所

岡山医療センター : 8A・9A・9B  
金川病院

## V. 行動目標および学習内容

実習目標	行動目標	学習内容
1. 健康障害を呈した対象の健康障 害がもたらす影響が理解できる。	1) 健康障害がもたらす身体的な影 響が述べられる。 2) 健康障害がもたらす精神的な影 響が述べられる。 3) 健康障害がもたらす社会的な影 響が述べられる。 4) 健康障害がもたらす日常生活行 動への影響が述べられる。	加齢、病態、治療等に伴う生理的変 化、褥瘡リスクの評価 入院による環境の変化、病気の受け 止め方、人生観、価値観、生きがい、 せん妄リスクの評価 発達課題、家族関係 日常生活自立、手段的自立の状況、 転倒転落リスクのアセスメント
2. 健康障害を呈した対象の治療上 の管理をふまえた日常生活援助 が実践できる。	1) 対象に行われている治療・検査・ 処置に伴う二次的合併症が述べ られる。 2) 対象に行われている治療・検査・ 処置に伴う二次的合併症の予防 が 実施できる。 3) 対象に行われている治療・検査・ 処置に伴う日常生活援助ができ る。	治療上の管理（治療、検査、処置） に伴う影響（二次的合併症、副作用） 薬物の副作用予防、廃用症候群予 防、感染予防 治療・検査・処置による影響を考慮 した援助、転倒転落予防の援助

実習目標	行動目標	学習内容
	4) 対象に行われている治療・検査・処置に伴う診療補助技術の留意点が述べられる。	治療上の管理（治療、検査、処置）に伴う診療補助技術の準備、観察、看護援助
3. 健康障害を呈した対象の回復に向けた残存機能を活かした援助や機能低下防止に向けた自己管理への援助ができる。	1) 対象の加齢に伴う変化や健康障害による回復状態や残存機能が述べられる。 2) 対象の加齢に伴う変化や回復状態に応じた機能低下防止の援助ができる。 3) 対象の残存機能を活かした援助ができる。 4) 対象および家族の生活史を考慮した指導内容が述べられる。 5) 対象の状況に応じた自己管理の支援ができる。	加齢や回復状態に伴う身体的・精神的・社会的変化に応じた援助、機能低下防止の援助 残存機能（身体的自立、手段的自立、自己管理能力）を活かした援助 セルフケア行動の障害となる要因、生活習慣、生活史を尊重した援助 自己効力感、自己決定を尊重した援助（動機付け、エンパワメントアプローチ）
4. 対象および家族を取り巻く地域、社会の状況をふまえた退院後の生活に向けた援助が理解できる。	1) 対象を支える家族の支援が述べられる。 2) 対象を取り巻く環境と生活状況に基づき、退院後の生活適応へ向けた援助の必要性が述べられる。 3) 対象のサポートシステムが述べられる。 4) サポートシステムが円滑に機能するための連携の必要性が述べられる。	家族の疾患に対する認識や思い、家族役割・介護力 社会的環境、生活力量、問題解決能力、生活環境、介護力 医療体制、介護保険制度のしくみ、在宅療養に関する機関、サポートする職種（退院調整看護師、ソーシャルワーカー等）、成年後見制度 サポートシステムが円滑に機能するための医療職者の連携（退院調整看護師やソーシャルワーカー等の役割、対象と家族・地域との調整的関わり、退院調整に関するカンファレンス）